



歴史をたどるウォーキングツアー



植民地

カスタム・ハウスからミラーズ・ポイント

写真提供: Gary Deirmendjian collection, City of Sydney Archives



植民地

カスタム・ハウスからミラーズ・ポイント



初期のヨーロッパ人のシドニー住民と言えば、囚人、兵士、捕鯨船長と水夫であり、誰しもがこの道を歩きました。後に、海運業の有力者、波止場の労働者、商人となりました。ロックス(The Rocks)やミラーズ・ポイント(Millers Point)は変化が激しい場所でしたが、目まぐるしく動いている近代都市にも、その当時の面影の跡が覗えます。パブ、教会、遺跡、家などの全てが過去の生活や道を感じさせます。

写真提供: Adrian Hall, City of Sydney Archive



写真提供: Gary Deirmendjian collection, City of Sydney Archives



写真提供: City of Sydney Archives



植民地

カスタム・ハウスからミラズ・ポイント



i ロックス(The Rocks)

ごった返した通りや細道は、今でもロックス(The Rocks)が囚人達や元囚人達が住んだ最初の場所だったということがはっきりと分かります。パロックに収容され、鉄の錘が付いた鎖をぶら下げた囚人達のイメージは誇張されたものです。殆どの囚人は単に日中は政府の下で働き、後の時間は、建築業、店やパブの経営、ロックスでの新しい人生の開拓などの自営業を行っていました。現在のロックスは生きる博物館であり、実際にどの場所にも物語があります。

見逃せないお勧めスポット

- 35 キャンベルズ・ストアー
- 36 ANSCO ビル
- 37 観光センター
- 38 マリナーズ教会
- 39 アーガイル・カット
- 40 アーガイル・ストアー
- 41 現代美術館
- 42 ロックス発見博物館



写真提供: Gary Deirmendjian collection, City of Sydney Archives

i ミラズ・ポイント(Millers Point)

このツアーの後半では、かつては19世紀の砂岩造りの建物が、20世紀最初の10年間、シドニー・ハーバー・トラストによって建てられた赤レンガの建物が並ぶ場所に行きます。何千人もの男が雇われ、砂岩の岩盤を崩し、新しいウォルシュ・ベイ(Walsh Bay)の波止場に続く2段の道路を造りました。トラストは、その後、新しい景観を開発し、実用を目的としてレンガ造りの家、店舗、パブなどを建てました。ミラズ・ポイントの小さな村の雰囲気は、街を取り囲む高層商業ビルから来た訪問者にとって意外な発見となり新鮮さが味わえます。

i ブリッジ・ストリート(Bridge Street)

ブリッジ・ストリート(Bridge Street)はタンク・ストリーム(Tank Stream)を渡る木造の歩道橋に名づけられました。当初から、街は物理的にも社会的にも、タンク・ストリームを境に2つに分かれていました。東側には知事の家や民間事業所のテントがあり、西側には一時しのぎの兵舎や囚人のパロックがありました。現在、この社会的区分の標識が多く残っています。



写真提供: City of Sydney Archives

植民地

カスタム・ハウスからミラーズ・ポイント

このツアーの所要時間は1、2時間です。



1 カスタム・ハウスから出発します。



Photo: City of Sydney Archives

1 カスタム・ハウス(Customs House)

カスタム・ハウス(Customs House)は船の出港手続きをする税関所であり、シドニー港に到着する商品は販売用、輸出用に課税されました。

港が盛んだった頃の税関所は、人々の熱気、遅れ、取引の論争などがあり、人々で混雑し賑やかでした。カスタム・ハウスの周囲には民家、船舶業者、一般の海事活動がありました。

税関所と平行にロフトス・ストリート(Loftus Street)を歩きます。初めてイギリスの旗が揚げられた場所に、旗が永久に立てられています。オーストラリア人の中には、ここが侵入の場所と感じる人もいます。カスタム・ハウスの裏の小道に入っても、突き出た屋根の下に滑車が付いている古いヒンチクリフのウールストアー(Hinchcliff's Woolstore)が見えます。

ロフトス・ストリートを渡り、マッカーリー・ブレース(Macquarie Place)に向かって歩きます。公園の向かいにあるアーチ道をくぐると、**ブレティン・ブレース(Bulletin Place)**②にぶつかります。

2 ブレティン・ブレース(Bulletin Place)

この類まれな街頭風景には、この地区の殆どが倉庫保管所であった初期の様子がかすかに窺えます。ブレティン・ブレース(Bulletin Place)は1880年以降、J.F.アーチボルド(Archibald)の有名な週刊誌ザ・ブレティン(The Bulletin)が印刷された場所です。この地域は、ジャーナリストや新聞者たちの行きつけの場所であり、シドニーに関する19世紀後半の印刷物によく掲載されます。

マッカーリー・ブレース(Macquarie Place)まで戻ります。

3 マッカーリー・ブレース(Macquarie Place)

もともとは、植民地最初の給水であったタンク・ストリームの土手の沼地にあるマングローブで、この小さな場所には歴史の遺物が沢山あります。

全ての植民地までの距離はオベリスクを中心に測られています。この砂岩造りの記念塔は、偽造の罪により植民地に送られ、シドニーで最初の植民地時代の建築家となったフランシス・グリーンウェイ(Francis Greenway)がデザインをしました。シドニーで一番愛された囚人所の多くに、彼の名残が見えます。

トーマス・サトクリフ・モート(Thomas Sutcliffe Mort)像の台座に本人の数多くの業績が一覧表になっています。目を引く像は、最初の金融街であったブリッジ・ストリート(Bridge Street)を一望しています。



写真提供: Gary Deimendjian collection, City of Sydney Archives



写真提供: Gary Deimendjian collection, City of Sydney Archives

ブリッジ・ストリート(Bridge Street)④にある砂岩造りの**ランドズ・デパートメント(Lands Department)**⑤はマッカーリー・ブレースのちょうど向かい側あります。東の方向には、**教育総局(Education Department)**⑥、最初の**総督官邸(Government House)**⑦の裏に建つ**シドニー博物館(Museum of Sydney)**、**植民地時代の長官の建物(Colonial Secretary's building)**⑧などの庁舎があります。

右折し、**ジョージ・ストリート(George Street)**を真っ直ぐ歩きます。途中、**オーストラリア証券取引所(ASX/Australian Stock Exchange)**⑨、**オールド・エクスチェンジ・ホテル(the old Exchange Hotel)**⑩、嘗ては太平洋の主要な船舶業者であった**バーンズ・フィリップの本社(the headquarters of Burns Philp)**⑪、そして角に**メトロポリタン・ホテル(Metropolitan Hotel)**⑫があります。

植民地

カスタム・ハウスからミラーズ・ポイント

13 グロブナー・ブレース(Grosvenor Place)

角に建つメトロポリタン・ホテル(Metropolitan Hotel)の手前、ジョージ・ストリートの斜め向かえに建築上似たような建物があります。古い赤レンガ造りのジョンソンズ・コーナー(Johnson's Corner)とブルックリン・ホテル(Brooklyn Hotel)は1910年にウォルター・L・ヴァーノン(Walter L. Vernon)がデザインしました。

グロブナー・ブレースの塔はその古い建物の裏にあります。(ハリー・サイドラー(Harry Seidler)がデザインをし、1982年から1987年の間に建設された)この塔を建てる条件は、ジョンソンズとブルックリンの建物を残すことでした。

グロブナー・ブレース(Grosvenor Place)13に向って歩き、古き19世紀の外観のあるグロブナー・ストリート(Grosvenor Street)を歩き、セント・パトリック教会(St Patrick's Church)へ向かいます。

14 セント・パトリック教会(St Patrick's Church)

このシンプルなゴシック様式の砂岩造りの教会はJ.F.ヒリー(Hilly)が設計したもので、1840年代に、囚人であり、1798年のアイルランド人の暴動に参加したウィリアム・デイビス(William Davis)が貢献した土地に建てられました。教会は、シドニーに住む労働階級のローマカトリックのアイルランド人の伝統的中心地となっています。多くの市内に住む子供達はセント・パトリック教会で教育を受けました。最近再構築されたこの教会とそれに関わる建物を訪問する価値があります。

ガバナー・ハンターが、この地域を教会地区として捧げ、今ではチャーチ・ヒル (Church Hill) として知られています。シドニー・コーブ (Sydney Cove) の近くにあった最初の教会が囚人達により全焼した後、1798年から1807年、ここにセント・フィリップの英国国教会が建てられました。現在のセント・フィリップス(St Phillip's)15は1848年に建てられたものです。旧スコツ・プレスピテリアン教会(Scots Presbyterian Church)16は、ハーバー・ブリッジ (Harbour Bridge) の建設の試みのため、破壊された古い教会の代わりに建てられました。

ハリントン・ストリート(Harrington Street)を暫く歩き、カヒル高速道路の下を通り、左側にある古びた階段を上がり、カンバーランド・ブレース(Cumberland Place)17とスザンナ・ブレース(Susannah Place)18へ行きます。

17 カンバーランド・ブレース (Cumberland Place)

1807年の初期の地図を見るとカンバーランド・ブレース(Cumberland Place)の階段が続く細道があったことが分かります。階段の細道はグロスター・ストリート(Gloucester Street)まで続いています。今、自分が立っている場所は、昔のシドニーの住宅街の中心部だった通りや道が交差する場所にいます。



写真提供: State Records NSW

18 スザンナ・ブレース(Susannah Place)

この地域の小さな家々や角にある店(58-64 Gloucester Street)は1840年代までさかのぼります。今では博物館となっており、納屋や地下の台所を含め、その当時の室内装飾がそのまま目にすることができますので、19世紀半ばの労働階級の生活ぶりが想像できます。



写真提供: Ray Joyce, courtesy Historic Houses Trust of NSW

スザンナ・ブレース18のちょうど向かいはこの小さな場所に密集していた家、店、ホテルの跡や土台が発見された遺跡発掘の場所です。スザンナ・ブレースから坂道を上ると、オーストラリアン・ホテル(Australian Hotel)19に到着します。

19 オーストラリアン・ホテル (Australian Hotel)

このホテルは1914年に建てられた、典型的な19世紀前半のホテルです。オリジナルのプレス加工された金属の天井とエッチング加工されたガラスが残っています。階が分かれているパーからはでこぼこした土地に出られます。この変わった形をした土地は、ハーバー・ブリッジの建設用に、通りを再編成することによって生まれたものです。

カンバーランド・ストリート(Cumberland Street)を北に少し歩き、ハーバー・ブリッジの階段下の地下道を歩きます。目の前の丘は天文公園(Observatory Park)20です。

20 天文公園(Observatory Park)

ここはシドニー初の風車が建てられた場所です。フォート・フィリップ(Fort Phillip)やフラッグスタッフ・ヒル(Flagstaff Hill)としても知られています。1858年に砂岩造りの展望台が完成された後、天文台の丘(Observatory Hill)として知られるようになりました。植民地時代の天文学者達がこの建物から科学的観測を行っている頃、地元のシドニーの住民にとっては、時間の知らせとなっていました。塔の上からボールが下と落ちると、それが午後1時の知らせとなっていました。展望台の入り口は丘を上った所にあります。毎日オープンしており、展望台の庭からは素晴らしいハーバーや波止場の景色が見下ろせます。



写真提供: Gary Deirmendjian collection, City of Sydney Archives

植民地

カスタム・ハウスからミラズ・ポイント

21

ウォルッシュ・ベイの波止場 (Walsh Bay Wharves)

壮大な木造2階建てが並ぶ波止場は、1901年に政府はシドニーのごった返しているだけで役に立たない波止場地区を近代化する計画を立て、シドニー・ハーバー・トラスト(後に港湾局Maritime Services Board)が大規模な工事を起こした1部でした。波止場はコンクリートで建てられる予定でしたが、第1次世界戦後、材料不足により、木材が使用されました。波止場と港に建てられた小さな倉庫は産業用建物が集中し、1910年以降何年もかけて建てられました。



写真提供: Patrick Bingham-Hall, City of Sydney



写真提供: Patrick Bingham-Hall, City of Sydney

展望台を出たところにある丘はナショナル・トラスト・センター(National Trust Centre)22です。もし、時間が無いようでしたらこの場所の訪問を省いても結構です。丘を下り、ギャリソン教会(Garrison Church)28でツアーに再度参加できます。

22

ナショナル・トラスト・センター (National Trust Centre)

この共同ビルにある最古の建物は1815年に建てられた2階建ての旧陸軍病院ですが、現在では高速道路に面しています。後に、植民地で教員の研修を設けた最初の学校である有名校のフォート・ストリート校となりました。ナショナル・トラスト・センターにはS.H.アービン・ギャラリー(Ervin Gallery)、カフェ、店があります。

左手にあるアガー・ステブソン(Agar Stepson)23に戻り、小さな長屋が続く道を歩いてセント・ストリート(Kent Street)に行きます。アガー・ステブソンの向かいにあるハイ・ストリート(High Street)を歩くとシドニー・ハーバー・トラストが建てた20世紀前半の家があります。

右折し、セント・ストリートを真っ直ぐ歩くとアーガイル・ブレースにぶつかります。角の手前右手にある小さなセント・ブリッジ日曜学校(little St Brigid's Church School)24は、1834年から1835年に建てられたオーストラリア最古のローマンカトリックの建物です。角には郵便局があります。斜め向かいに、シドニーで最古のパブの1つロード・ネルソン・ホテル(Lord Nelson Hotel)25があります。

25

ロード・ネルソン・ホテル (Lord Nelson Hotel)

元々は、元塗装屋だったウィリアム・ウェルズ(William Wells)が1836年に、自分の住処として建てましたが、シドニーの街が市として公表された1年前の1841年にロード・ネルソンがアルコール許可書を取得し、こうしてシドニーで最古のパブの1つとなったのです。

ここからアーガイル・ブレースを歩きます。もしくは、左折し、ハーバー・トラストが建てた村の店を通過し、赤レンガのバリセード・ホテル(Palisade Hotel)26へ回り道をします。ホテルを通過し、メリマン・ストリート(Merriman Street)に沿って歩き、突き当たりのリトル・リザーブ(little reserve)27まで歩きます。その裏道を歩くと、岩の上に建てられた古い長屋が見えます。- まさに、到着予定の船がくるのを見張るには最高の場所です。ロード・ネルソン(Lord Nelson)25の場所に戻ります。アーガイル・ブレース(Argyle Place)を歩き村の共用草地を通りすぎ、ギャリソン教会(Garrison Church)28に向かいます。

28

ギャリソン教会(Garrison Church) ホーリー・トリニティ

ニューサウスウェールズ州初の公式教会で、ドーズ・ポイント(Dawes Point)にある軍の駐屯地で礼拝が行われました。朝の礼拝に出席するために、兵舎からローワー・フォート・ストリート(Lower Fort Street)を行進する赤いコートを着た兵隊達を想像してみてください。教会は公式にはホーリー・トリニティと呼ばれていましたが、ギャリソン教会として名が知られています。軍旗が今でも教会内に飾られており、隣の小さな博物館に軍の記念品があります。



写真提供: Gary Deirmendjian collection, City of Sydney Archives

写真提供: Adrian Hall, City of Sydney Archives



写真提供: City of Sydney Archives



ローワー・フォート・ストリートからウィンドミル・ストリート(Windmill Street)の角にあるヒーロー・オブ・ウォーターロー(Hero of Waterloo)29まで歩きます。

29

ヒーロー・オブ・ウォーターロー(Hero of Waterloo)

ヒーロー・オブ・ウォーターロー(Hero of Waterloo)の荒くカットされた砂岩造りの壁と室内装飾のずっしりした木材の梁は、水夫の生活が厳しかったことを示しています。このホテルは、1843年に石工者であったジョージ・パトン(George Paton)によって建てられました。ヒーロー・オブ・ウォーターローには、隠し跳上げ戸、麻酔薬や酒で酔わせられて乗船させられ水夫にされた人達、ラム酒の密輸など、地元の物語がたくさんあります。

植民地

カスタム・ハウスからミラズ・ポイント

ウィンドミル・ストリートを渡り、フェリー・レーン(Ferry Lane) ③⑩に行きます。

③⑩ フェリー・レーン(Ferry Lane)とパドック(The Paddock)

この敷石の道は、かつては波止場まで続いていました。小道やパドック(The Paddock)と呼ばれるリザーブ内にある銘板とその標識でこの地域の歴史が分かります。

パドック(The Paddock)を過ぎ、左側の道に沿って歩きます。立派なジョージ王朝風の家々が建つローワー・フォート・ストリートと平行になっているフェリー・レーンを半分ほど歩きます。このストリートに行くには右側の階段を上ります。角に私立の博物館、クライド・バンク(Clyde Bank) ③①があります。ほぼ斜め向かいには、シドニー・ハーバー・トラストが建てたハーバー・ビュー・ホテル(Harbour View Hotel) ③②があります。

ジョージ・ストリート(北)へ真っ直ぐ歩き、ロックスに戻ります。途中鑄鉄製のトイレ(Cast Iron Urinal) ③③があります。

③③ 鑄鉄製のトイレ(Cast Iron Urinal)

これは市内に残された最後の鑄鉄製のトイレです。20世紀前半のシドニーでは、公衆トイレが街頭によく見られました。



写真提供: City of Sydney Archives

その道路の向かいにはドーズ・ポイント/タルラ(Dawes Point/Tarra) ③④です。

③④ ドーズ・ポイント/タルラ(Dawes Point/Tarra)

タルラは原住民がこの場所に付けた名前です。ウィリアム・ドーズ中尉は英国緯度観測局のために天文台を創設するために派遣されました。彼はPatyegarangと友情を持った言語学者でもあり、現在ロンドンに保管されている最古の原住民の言語辞書の1つを作成しました。1788年に銃が最初に作られたのはこの場所でしたが、防衛対策は中途半端でした。1808年のガバナー・ブライ(Governor Bligh)によると、殆どの砲床は標的よりもその使用者に危険が伴い、何台もの火砲運搬車はシロアリの被害を受けました。

遺跡の発掘場所やこの保存品の説明は分かりやすく案内標識されています。時間があれば、立ち寄り価値があります。もし時間がなければ、ジョージ・ストリート(北)を歩き続け、ロックスに戻ります。

ここでツアーは終了します。ロックスの探索の続きは次の機会にします。シドニー観光センター(The Sydney Visitor's Centre) ③⑦でインフォメーションとパンフレットが入手できます。ケンダル・レーン(Kendall Lane)の近くにあるロックス発見博物館(The Rocks Discovery Museum) ④②に行くとロックスの歴史と考古学が学べます。



歴史をたどるウォーキングツアー

このシリーズにはまだ他のウォーキング・ツアーのパンフレットがあり、更にシドニーの歴史跡を発見することができます。

詳細は市のウェブサイト

www.cityofsydney.nsw.gov.au/history

でご覧になれます。または、9265 9333のシドニー市までご連絡下さい。

視聴覚障害者専用は9265 9276です。

このパンフレットはシドニー市にあるヒストリー・プログラム(the History Program)によって資料収集されました。2005年11月、第四巻。

